

企業の生き残り

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

効率性と生産性における最も優れた企業基準は、開発と製品基準において、企業の構築を与えるものである。製品における価格アドバンテージは、その需要を確保するものである。

これらは先端 IT 環境における企業の効率的なシステム化が、生産、流通、間接、小売において、その最も優れた企業行動を実現するため、企業がこれら環境を自己に構築することが、企業の計り知れない強さを与えるのである。

これらは企業内における優れた市場認知、製品理解、ビジネス理解の育成は、企業風土を育成し、これらが時代と世界において対等な自己を必ず要求するのである。

製品の機能性は製品価格とともに、その正しい需要を創造できるものであり、技術やデザインなど、自己の製品哲学と理解が、市場での固定した需要を模索できるものである。

これら独自性は、唯一自己の理解の進捗であるという理解は正しいと考える。これらは企業経営が、正しい理解の蓄積において可能であるということなのである。

製品における可能性は、技術と製品への理解の拡大なのである。正しい消費者思考への理解は製品を的確に提案できるのである。

また財務体質において国際基準における自己を有することは、グローバル市場への参加を正しく与えるものなのである。

またグローバル化という現実には全ての企業がこれら基準の受け入れを要求されるものであり。既存価値観からの脱却は企業の健全性を行うことができるのである。

企業の強さは、企業風土、効率性と生産性、システムと財務体質、製品力において、ハードとソフト両面で、市場の先端性を求められるのである。

これらは未来という現実への参加基盤として、企業が新しい自己を有することの必要性が存在するのである。